

公明党視察報告書

視察先	「ペアレント・メンターあだち」
日 時	平成 30 年 7 月 10 日 (火)
場 所	東京都足立区内「一般社団法人ねっとワーキング」
テーマ	ペアレント・メンター事業について
対応者	一般社団法人・・・ねっとワーキング日笠よう子 足立区障がい福祉センター・・・宮田氏・佐藤係長
概 要	
<p>1. 事業開始の経緯</p> <p>2014 年、鳥取大学井上雅彦教授がペアレント・メンター普及のために足立区を訪れた際、区の福祉部長と懇談され、「ペアレント・メンター」の必要性を感じた。</p> <p>区内でも様々な団体の「発達障害の親の会」があり、横の連携への推進要望もあったこともあり、障がい者福祉センターとしても「同じ境遇の方と話がしたい」「発達障がいの経験者の話を聞きたい」等の声も多く聞いていたので、この事業の立ち上げに繋がった。</p> <p>2. 事業目的</p> <p>発達障がいのある子どもの育児経験のある親を「ペアレント・メンター」として育成し現在、発達障がいのある子どもの対応に悩んでいる親(養育者)の相談支援を行い、より身近な存在である親の理解促進、支えあい等の支援の強化、発達障がいの正しい理解と、その親の孤立を防ぐことを目的とする。</p> <p>◆支援対象者・・・①発達障がい児(者)の親(養育者)やその家族 ②発達障がい児(者)に関わる支援者等</p> <p>3. 事業内容</p> <p>① 個別相談</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に月 2 回以上の予約制相談の実施</li> </ul> <p>② グループ相談(交流会や茶話会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援対象者のニーズや状況に合わせて、2 カ月に 1 回程度実施</li> </ul> <p>③ リソースブック・ファイルの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2 カ月に 1 回程度情報の共有を行う</li> </ul> <p>④ ペアレント・メンター養成研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障がいのある子どもの親(養育者)や、親の会に所属している者をペアレント・メンターとして養成する。(年 1 回程度)</li> </ul> <p>⑤ ペアレント・メンターフォロー研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンター会議を 3 カ月に 1 回程度実施</li> </ul> <p>⑥ 地域の家族支援のニーズの対応とリソース調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援対象者のニーズの把握及び家族支援の調査の実施</li> </ul> <p>⑦ 運営委員会の開催(年 1 回程度の開催)</p> <p>⑧ 啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアレント・メンターの活動の理解啓発を 2 カ月に 1 回程度行う</li> </ul>	

- 4.ペアレント・メンターあだち「一般社団法人ねっとワーキング」とは
- ・足立区のペアレント・メンター事業受託のため、平成28年に設立した法人
  - ・登録者数：平成30年5月現在・・・90名（メンター20名含む）
  - ・対象障がい児（者）数・・・男性16名・女性11名
  - ・区内の療育機関と発達障がいに関する保護者団体とのネットワーク
- 5.ペアレント・メンターあだちの活動
- ◆区受託事業
    - ・ぴあトーク（個別相談）
    - ・ぴあサロン（グループ茶話会）
    - ・キャラバン（小学校教員向け研修・道徳教育公開講座他）
    - ・コメンテーター派遣（保育園発達コーディネーター研修他）
  - ◆自主事業
    - ・会員向け勉強会の開催
    - ・企業見学会開催
    - ・ニーズからツール作成(サポートファイル作成会・・・別紙画像あり)
  - ◆相談内容
    - ・福祉サービスの利用の不满・本人の行動・進路・家族のことなど様々。  
保護者(相談者)の方の悩みに寄り添い相談を受けることが、メンター自身の活力と成長につながっている。
  - ◆相談者の声
    - ・同じ思いで日常を話せて気持ちが軽くなった。
    - ・学校や家庭での行動面の対処法や、気持ちの切り替え方など参考になった。
    - ・中学校以降の進路の選択肢を知ることができた。
    - ・様々な福祉サービスの活用を知ることができた。
  - ◆メンターの声
    - ・相談者の不安な顔が明るくなっていくことが嬉しかった。
    - ・自分の苦勞した子育てが誰かの役に立てることが嬉しい。
    - ・我が子以外の子育て方法を知り、多くの事を見聞きし自分の考えが柔軟になった。
  - ◆この事業の効果
    - ・障がいの特性が様々なペアレント・メンター間で、相互理解が進んでいる。  
(特に、発達障がいの困難さに理解は大きく進んでいる。)
    - ・ペアレント・メンター運営サークルの参加者が増えて活性化している。
    - ・親(相談者)のニーズにより発達障がいの啓発や勉強会が増えてきた。
    - ・外部団体や有識者との繋がりが持てるようになり、情報提供の機会が増えた。
    - ・家庭支援が子どもにとって大切であることが周知されてきた。
    - ・教職員や子育て支援者に「親」の気持ちや背景を知ってもらう機会ができた。

#### ◆今後の計画・課題

- 委託事業として進めるための基盤整備を引き続き進める。
- 事業の啓発をすすめて、区内での活用を広げる。
- ペアレント・メンター自身の生活の中で無理のない協力を得る。
- ペアレント・メンター間の相互理解と合意を得て活動を行う。

#### 所 感

- ・ 発達障がいや困り感を持つ子ども（家族）を持つ方たちが、子育て時の不安や困難を感じる際に、自分と同じ経験をした人に相談し、少しでも現在の不安やこれからの進路についての悩みなどを、気軽に話せる場所がこの「ペアレント・メンター支援事業」である。大野城市の「ペアレントトレーナー育成事業（発達障がいを持つ方への接し方トレーニング事業）」とは違い・・・経験者が同じ悩みの人の相談にのる事業である。
- ・ 同じ悩みを経験した人（ペアレント・メンター）が相談にのっても、相談者の環境的には大きな変化は無いが、「当事者の心のケア」は、大きく改善されていると思う。
- ・ 今までは個々の団体が、様々な形（水泳・ダンス・読み聞かせ会・親の会等）で活動していたが、この事業ができたことで各団体の横の連携ができ、多くの方の情報を得ることができ、視察時も「荒川区」の発達障がい者団体も見学に来ていた。
- ・ 行政としてこの事業を委託することで、運営費用（家賃・事務費・運営費等）の負担が行えてはいるが、社団法人としての事業の為、様々な提出書類や取り決められた運営を行わないといけない（今までは自由に活動できた・・・）ことが少し負担のようだ。
- ・ 運営の中心は4人で行い、通常は仕事をしておりメンターとしての相談等のときは若干の報酬（1,000円/時）も、運営費の中から支出している。
- ・ この活動はメンターとして、同じ悩みを持つ方の少しでも助けになればとの思いで始まっているので今後も活動として、人材の育成や相談者の拡大も色々な機会を通じ広げていければ、一人で悩んでいる人の気持ちを和らげることができる。
- ・ 大野城市にも同じような「親の会」があるが、行政から支援を受け、この事業を行いたいかは不明であるが・・・立ち上げの苦勞と、日々の処理業務の忙しさを思うと現在の状況で良いと感じるのではないかと思えた。
- ・ このような「親の会」に、大野城市として何らかの支援が出来るようになればもっと障がい者に優しい「市」になると思う。
- ・ このような発達障がいを持つ家族等の「悩みを聞ける場」を行政として設置することも必要ではと考える、現在教育部の「サポートセンター」が、発達障がいの子どもと保護者への相談等を行っているが、「育て方や関わり方」の「策」を伝えることを主としているように見える・・・実際にその家族の状況が変わらなくても「寄り添い」「悩みを聞く」ことで精神的な「心のケア」が行えるのが、この「ペアレント・メンター」ではないか。  
ぜひ、大野城市も「親の会」のようなグループが負担と感じない支援を行政として考え、力（マンパワー・お金支援等）を貸してほしいと思う。

画像（略）

公明党市議団・・・井上正則・白石重成・大塚みどり・河村康之

- 作成者：河村 康之 -